



【今週の暗唱聖句】 イザヤ 45 : 22

「地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て  
救われよ。わたしが神である。ほかにはいない。」

確かに聖書は中東のイスラエルという弱小な国についての物語です。しかし、そのページを開いて見ると、最初のページから最後のページまで視野は世界大、時間軸は天地創造から今の時代の終わり、さらに新天新地、永遠へと続きます。その中で一貫して語られるメッセージは「神に立ち返って救われなさい。」です。旧約聖書イザヤ書で「わたしを仰ぎ見て」と書かれている「わたし」こそ、新約聖書で明らかにされた神の御子イエス・キリストなのです。■

### 【ADVENT WREATHの意味】

今日からアドベントリースのロウソクに火が点ります。カトリック教会の様々な表象の習慣から離れたプロテスタント教会では四本の赤いロウソクを点すことも多いのですが、カトリック教会の伝統がより色濃く残るルーテル派の教会などでは、よく注意して見るなら、紫、ピンク、白の三色のロウソクが使われていることに気がつかれるでしょう。紫はもともとは悔改め、待ち望むことを意味し、ピンクは喜び、白は聖いキリストを表します。さらにロウソクが立てられているリース（輪／円周）は常緑樹の緑と共に永遠のいのちを現わしています。それぞれのロウソクの意味は次のとおりです。

#### ◆一本目（紫色） 預言のロウソク／希望

神の御子の誕生は旧約聖書の預言者たちによって預言され、苦しみや悲しみの中にあつた多くの人々に希望を与えて来ました。

#### ◆二本目（紫色） ベツレヘムのロウソク／愛

ベツレヘムにはキリストが誕生するための飼葉桶が用意されていました。二本目は「備え」または「愛」の意。

#### ◆三本目（ピンク） 羊飼いのロウソク／喜び

アドベント第三日曜日はGaudete（喜び）Sundayと呼ばれ、悔悛の中にもクリスマスが近づく喜びを現わします。

#### ◆四本目（紫色） 天使のロウソク／平和

羊飼いたちが聞いた天使の賛美は「天には栄え、地には平和があるように」でした。

#### ◆中心（白） キリストのロウソク

キリストを現わす白は罪がなく聖いイエス様の姿です。

★イエス様の御業に思いを潜めましょう。



【先週のメッセージ】  
「感謝しつつ生きる者の  
幸い」 申命記8章

●プリマスに到着したピルグリムたちは最初の冬、仲間の半数を失い、平均すれば二日に一度は葬儀をしていた。彼らはイギリス、オランダでの豊かで安定した生活を捨てて新大陸にやって来た。暖かな家も、十分な食料も、贅沢な食器も、多くの服装も、社会的な地位も何もかも、すべてを置いてやって来たのである。

●現代に生きる我々にとっては、感謝できないことだらけの彼らの生活

の中で、彼らは感謝をささげることができたのである。なぜか。彼らはどのような状況の中にあっても感謝することのできる「秘密」を持っていたからである。彼らはクリスチャンだったのだ。生きるも死ぬも、全て神の守りの中にあり、耐えることのできない試練には決して会わず、全ての困難は神の御業の前進と自らの人格の整えと成長につながるということを彼らは知っていたのである。

●ピルグリムから400年、今やアメリカは空前の繁栄の中にある。しかし、神を恐れず自分の力を誇り、神を忘れ、感謝のない不満な人たちは増える一方である。申命記8章は豊かになって、神を忘れることがないように、どんな時にも神を誉め称え、感謝するように命じている。子育て中、子どもがどんな時にも「ありがとう」を言うように私たちはしつけるではないか。大人になったときに、どんな時にもまず先に「感謝します」と神に言い続けることができるか否か、これが私たちの運命を決定していくと聖書は教えている。神への感謝は私たちの安全である。心を込め、毎週礼拝で神に感謝しようではないか。



【今週の英語】 Adrian Rogers “Adrianisms”

**The devil gives the best first and the worst last,  
but the Lord saves the best for last.**

悪魔はいちばん良いものを最初くれるが、最悪のものを最後にくれる。

主は最も良きものは最後までとっておいてくださるのである。

**Sorrow looks back; worry looks around;  
but faith looks up**

嘆きは後ろを振り返り、心配は周囲を見るが、信仰は上を見上げる。